

序論)

イザヤ書では今まで【主】が。「エジプトに頼るな。わたしに頼れとか。わたしを信頼しないものは恥をみる」といった。神様の裁きについての預言が語られていました。今日は。その神様によって神の国が。立ち上げられる時にどれほど大きな恩恵があるのかということをも32章の預言から見ていきたいと思ひます。

本文を見る前に。二つのキーワードについて皆さんにお話したいと思ひます。そのキーワードは何かということと**義と公正**です。

私は今まで特定の聖書のことばを繰り返して説明してきました。

それは聖とか、聖いということばです。このことばは聖書を理解するための鍵となることばの一つで、聖とか、聖いというのはただ単純にきれいで美しく、何も罪もないというだけではなくて、【主】のために区別するということをも指すのだと今まで何回も説明してきました。

今日、ご説明する義と公正ということも、聖書を理解するためにとっても大切なものです。

一般的に義というのは正義とか正しいということをも意味します。

そして、公正というのは公に正しいですから、誰が見ても正しいこと。共通した正義のことを指しているといえます。

しかし、聖書にかかっている義と公正というのはそういった一般的な意味だけではなくて、聖書的な意味、ヘブル語的な意味があります。

それは何かということ、まずは**義**からお話しますが、義とは聖書的には**神様に対してまっすぐ**という意味があります。それはこの義を示すヘブル語**ツァデク**とか、**ツァダカー**といいますが、このヘブル語には「まっすぐ」という意味があるからです。みなさん、私達は何をもって義といえるか。正しいといえるかということ。【主】に対してどれほどまっすぐなのか。そこによるのです。だから、罪を示すことばは色々ありますけども、そのうちの一つである「アーウォーン」というヘブル語は「曲がりくねっている」という意味があります。神様に対してまっすぐならば義、神様に対して曲がりくねっているのならば罪なのです。

もう一つのキーワード**公正**ですけども、公正はヘブル語で**ミシュパート**と言ひます。ただこれは公正というよりは、**神様の裁き、神様の判断**を示すことばとなつていま

す。神様は完全な義なるお方であり、完全に正しいお方です。ですから、その神様のご判断は世界共通の正義なのです。ですから、そうゆう意味でミシュパートは、公正と訳されています。

わかりましたでしょうか？

義というのは神様に対してまっすぐであること。

公正というのは、神様のご判断、裁きです。

これを踏まえて今日の箇所 3 2 章を見ていきたいと思えます。

1) 義なる王による神の国の到来

まず、今日の箇所は義なる王によって神の国が建て上げられていくということが書かれています。1 節を読んでみましょう。

32:1 見よ。一人の王が義によって治め、首長たちは公正によって支配する。

一人の王というのは当然、世の終わりに来られる【主】イエスキリストのことです。このお方は三位一体の神様なので誰よりも【主】なる神様とまっすぐ繋がっておられます。だから、キリストはその【主】とまっすぐ繋がった義によって世界を治めてくださるのです。

そして、その【主】なるキリストは神様のさばき、神様のご判断によって人々を導く首長たち、つまり、リーダーたちをお立てになるわけです。

今の時代は、神様のさばきによって、神様のご判断によって世を治めるリーダーたちはいません。しかし、世の終わりにキリストが建てられる神の国においては、すべてのリーダーたちは神様のご判断によって人々を治めるようになっているのです。

だから、【主】によって建てられたリーダーたちは人々を苦しめるのではなくって人々を守り支える存在になります。2 節。

32:2 彼らはそれぞれ、風を避ける避け所、嵐を避ける隠れ場のようになり、砂漠にある水の流れ、乾ききった地にある、大きな岩の陰のようになる。

私たちは日本で、水も日陰も豊かになるところに住んでいますから、水の有り難みとか日陰の有り難みというのがよくわかっていませんけども、イスラエルの、あの荒地が多いところにおいては、水っていうのはまさに命の水であり。日陰という

のは貴重な休息の場として本当に大切な所でした。だから、キリストの再臨によって建てられるリーダーたちというのは、人々の隠れ場であり、いのちの水の提供者であり、本当に人々を守り支えるそういう存在がリーダーとして建てられるのです。

今の弱い者を苦しめるような政策をするリーダーとは全然違うリーダーが建てられるのです。しかも、キリストの到来によって起こる変革というのはそれだけではありません。

今まで【主】をみようとしなかったものが【主】をみるようになり、御言葉を聞こうとしなかった者がみことばを注意深くきくようになり、気が短い者が心に真理の知識を蓄えるようになり、福音を語れなかった者も福音をはっきりかたれるようになるのです。それが書かれているのが3節、4節。

32:3 見る者の目は固く閉じることがなく、聞く者の耳は注意深く聞く。

32:4 性急な者の心も知識を悟り、もつれた舌もはっきりと早口で語る。

つまり、キリストが来られると人々の性質も大きく変えられていくのです。

2) 愚か者が指導者にならない正しい国家体制

そして、変えられるのは神の国の一般国民だけじゃなくって、先程いったようにリーダー、指導者と呼ばれる人たちも別の者に変えられていきます。5節を読みましよう。

32:5 もはや、愚か者が高貴な人とは呼ばれず、ならず者が上流の人とは言われない。

愚か者、ならず者というのは、【主】のご判断を仰がない人のことであり、自分勝手に人々をさばく人のことです。そういった自己中心によって国を治めるような指導者は、その立場から全部降ろされてしまうのです。なぜならば、そのような人たちは神様とまっすぐ結びついていないから。キリストは神の国を建てあげてくださるのに、その神の国の指導者たちが神様とまっすぐ結びついていなければ、だめですよ。聖書はそのように神様とまっすぐ結びついていない愚かな人たちのことを6節、7節のようにいっています。

32:6 なぜなら、愚か者は愚かなことを語って、心で不法を企み、不敬虔なことを行って、【主】に向かって迷いごとを語るからだ。飢えている者を飢えさせて、渴いている者に飲み物を与えない。

32:7 ならず者、そのやり方は悪質だ。彼は悪事を企み、貧しい者が正しいことを申し立てても、偽りを語って、苦しむ者を滅ぼす。

愚か者は心で不法を企む。不法とは神様の法律を持っていない状態のことです。つまり、愚かな人の特徴は心の中に神様のルールを持たないので、この人は神様を敬わず、神様に対して間違っただけを言います。当然、心に神様の法律がありませんから、本当の意味で人々を愛し、助けることができない。その人はむしろ人々が飢え渴いているにもかかわらず、放って於いてしまうのです。

しかし、**(8節)** キリストにたてられた高貴な人、キリストが高く上げてくださった人は、心に神様のルール、神様の判断を持つので、【主】が喜ばれる高貴な計画をたて、それを実行していくので)。当然、飢え渴いている人たちがいるのなら、放って置かれるようなことはありません。神様の法律にのっとって、神様のご判断にのっとって、神の国の指導者たちは飢え渴いている人を助けるように動くのです。これはとっても素晴らしいことではないでしょうか。

3) のんきにうぬぼれている者は悔い改めなければいけない。

じゃあ、この素晴らしい神の国の恵みを自動的に、何もしなくても受取ることができるのかというと、そうではありません。

9節からは安逸を貪る女、うぬぼれている娘たちに対する悔い改めを求める預言が書かれています。まずは9節を読みましょうか。

32:9 「安逸を貪る女たちよ。立ち上がって、わたしの声を聞け。うぬぼれている娘たちよ。わたしのことばに耳を傾けよ。

「安逸を貪る女たち」というのは「のんきな女たち」と訳してもいいかもしれませんが。これは、この世の平安、この世の富。そのようなものをみてのんきに構えている人のことです。神様なんかみなくっても、人がちゃんと勉強して、仕事をして、この世の財産を手に入れていけば大丈夫なんだ。神様なんかいなくとも私はやっていける。そのようにうぬぼれている人たちに【主】は悔い改めの預言を語られています。

なぜでしょうか。【主】の日が来て、キリストによって神の国が建て上げられていく時、この世の富、この世の収穫というのはなくなるからです。10節よみましょう。

32:10 うぬぼれている女たちよ。一年と少しの日がたつと、あなたがたはわななく。ぶどうの収穫がなくなり、その取り入れもやって来ないからだ。

ここではうぬぼれている女たち、高慢な女たちに対してかたっています。安逸を貪る女、のんきな女たちに対しても、11 節から 14 節で同じようにこの世の畑とか、ぶどうとかはなくなるよと言っています。

みなさん、キリストが神の国を建てあげるとき、私達が大事にかかえている財産。この世の富というのは実を結ばないもの、意味がないものになるのです。だから、この世の富はいつまでも自分のところに抱えていても意味がありません。

イエス様はルカの福音書 16 章 9 節で、不正な富で友を作れといわれました。

これはいわば、いずれなくなってしまうこの世の富を用いて、神の国の友をつくりなさい。ということです。

今の多くの人たちはこの世の富にしがみついています。それはお金だけではなくて、建物だったり、車だったり、株だったり、いわゆる財産といわれるこの世の富です。そして、この世の富をいっぱいもっていると、自分の将来は安泰だ。大丈夫だって思い込んでしまう。

でも、そんなこの世の富によってのんきに構えている者、神様なんか信じなくていいんだって高慢になっている者に対して、【主】は、キリストがこの世の富を実らないようにして、神の国を建てあげるから、着物を脱いで、粗布をまとい、胸を叩いて悔い改めなさい。と【主】はいわれるのです。この粗布をまとして、胸を叩いて悔い改めるといのは、本当に【主】の前にへりくだって、自分の過ちを認めて、【主】により頼まなかった自分を悔いて、【主】とまっすぐつながる方へと方向転換するのです。

私達がこの世の富により頼っている時、私達はそれを悔い改めて、この世のものではなくて、【主】にまっすぐつながるとい方向転換をしなければいけません。

4) 公正と義が平和をつくる

そして、【主】はこの世の富を実らせないようにするだけではなくて、この世の富とは全く違う。聖霊様による豊かな実を実らせてくださると約束してくださっています。それが 15 節

32:15 しかし、ついに、いと高き所から私たちに霊が注がれ、荒野が果樹園となり、果樹園が森と見なされるようになる。

高きところから、私達に聖霊様がそそがれる。するとどうなるかということ、荒野が果樹園になり、果樹園が森になる。

この世の富にしがみついているのんびりかまえていると、実はみのらず、神の霊である聖隷様が与えられると、荒野が果樹園に、果樹園が森になるような豊かな恵みが与えられるというのです。だから、私達は聖霊様を求めていく事が大切。

みなさん、聖霊様は私達に与えられる恵みの源です。聖霊様によって豊かな実がなるのです。そして、その実とはどうゆう実かというと、単純にお腹を満たしてくれる実ではなくって、公正と義という実がなるようになるのです。だから 16 節には

32:16 公正は荒野に宿り、義は果樹園に住む。

と書かれている。公正とはなんでしたか？ 神様のご判断。さばきですね。

義とは何でしたか。神様に対してまっすぐ結びつくことです。

私達は聖霊様によって神様のご判断、みこころを持つようになり、

聖霊様によって神様とまっすぐ結びつくようになるのです。

そして、その状態は豊かな果樹園、豊かな森をもっているのと同じなのです。

しかもですね。この義。神様とまっすぐ結びつくというのは、私達を豊かにしてくださるだけじゃなくって、平和や平穩を与えてくださると聖書はいつています。17 節、18 節を読んでみましょう。

32:17 義が平和をつくり出し、義がとこしえの平穩と安心をもたらすとき、

32:18 私の民は、平和な住まい、安全な家、安らかな憩いの場に住む。

みなさん、私達が聖霊様によって【主】とまっすぐ結びつくこと、平和と平穩、安らかな憩いの場を持つことができるのです。だから、私達は【主】とまっすぐに結びつくことを聖霊様に求めていくのです。

祝祷の時に、【主】イエスキリストの恵み、父なる神様の愛、聖霊なる神様との親しい交わりがありますように。とお祈りしますけども。なぜ、この祝祷の中に聖霊なる神様との親しい交わりがあるようにと祈るかというと、その聖霊様との交わりの中に、義につながる道であり、豊かさにつながる道であり、平和につながる道だからです。

逆にいうとですね。聖霊様なしに【主】とまっすぐ結びつくことはできないのです。

ですから、その【主】との結びつき、聖霊さまが与えられておらず、この世の富にしがみついている人たちは倒れ、卑しめられます (19 節)。

その時、キリストによって神の国が建てあげられる時、今のこの世の富というのは、

まったく無意味なものになるのです。だから、この世の富に頼る価値観で生きる者は、非常に悲しい状態になってしまいます。

逆に聖霊様によって【主】に対してまっすぐ結びつき、神様のご判断、御心を持つようにされたものは、幸いな者です。20節

32:20 ああ、幸いなことよ。すべての水のほとりに種を蒔き、牛とろばを放し飼いするあなたがたは。

敵が攻めてくる心配をせずに種を巻き、家畜を放し飼いしてもなんにも心配する必要がない。というのは、本当の安息、平安、平和が与えられているということです。そうゆう人は幸いです。

まとめ)

キリストはこのすばらしい神の国を建て上げるために、世の終わりに私達のところへ来てくださいます。鍵となるのは義と公正と聖霊さま。

神の国は一人の義の王であるキリストによって、神様のさばきをもつ、神様のご判断をもつリーダーたちによって治められ、人々が守られ支えられ、【主】に対する目と耳が開かれ、【主】の真理に対する悟りとそれを語る口があたえられます。

そして、この世の富ではなく、聖霊による義と公正という実りによって、本当に豊かで平安な歩みをすることができる。

それがキリストによって建て上げられる神の国です。

【主】はこの神の国をかならずたてると預言によって約束してくださっています。

私達のこの世の歩みには、なんでこんな事が起こるんだろうという事があります。アッシリアによる攻撃や、バビロンによる捕囚などの苦しみや悲しみがあります。

でも、義なる王であるキリストは必ずこの神の国を建てあげてくださることを信じて、私達はこの【主】に信頼していきましょう。

神の国の完成は確かに世の終わりのときです。聖霊様はすでに私達に与えられています。ということは、神の国の建築工事はキリストが受肉して、十字架と復活がなされ、聖霊が与えられたことによって既にはじまっているのです。

みなさんに義と公正を与えてくださる聖霊様はすでに与えられています。

だから、この聖霊さまにすがって、【主】にまっすぐ繋がっていきましょう。そして、【主】のさばき、【主】のご判断、【主】の律法を心に持つものとなっていきましょう。そのとき、その義と公正が私達に神の国の平安と平和を持たせてくださいます。